

中小企業動向 トピックス

中小企業の景況は、新型コロナウイルス感染症の影響により 厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる

「全国中小企業動向調査・中小企業編」結果概要
〔2021年4-6月期実績、7-9月期および10-12月期見通し〕

当公庫ではお取引先のご協力を得て、2021年6月中旬に「全国中小企業動向調査・中小企業編」を実施しました（調査対象13,506社、有効回答企業数7,225社、回答率53.5%）。

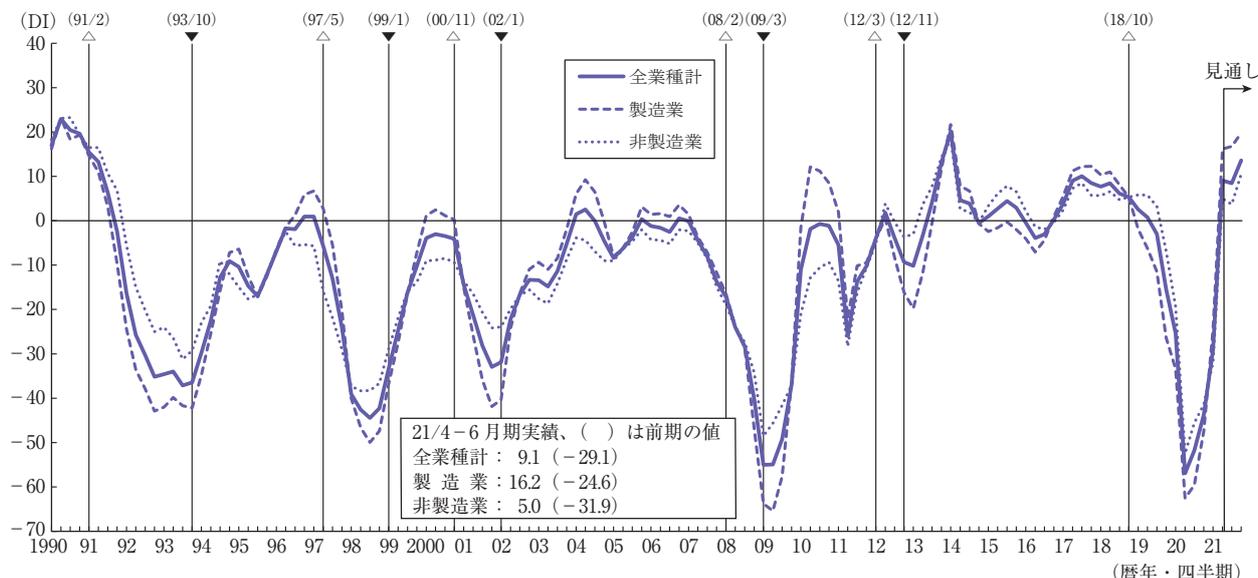
今期の業況判断DIは、前期から38.2ポイント上昇し、9.1となりました。中小企業の景況は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、依然として厳しい状況にあります。

業況判断DIは8期ぶりにプラス圏

今期（2021年4-6月期）の業況判断DIは、前期（2021年1-3月期）から38.2ポイント上昇し、9.1となりました（図-1）。4期連続の上昇で、2019年4-6月期以来、8期ぶりにプラス圏となりました。業種別にみると、製造業は前期から40.8ポイント上昇し、16.2となりました。非製造業も前期から36.9ポイント上昇し、5.0となりました。製造業が先んじて持ち直している格好です。

来期（2021年7-9月期）の見通しは8.5とわずかながら低下を見込んでいます。来々期（2021年10-12月期）は13.6と上昇を見込んでいます。

図-1 業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）



資料：日本政策金融公庫総合研究所「全国中小企業動向調査・中小企業編」（以下同じ）

（注）1 ▲は景気の山、▼は景気の谷を示す（以下同じ）。

2 今期調査において季節調整値の改定を実施した（以下同じ）。

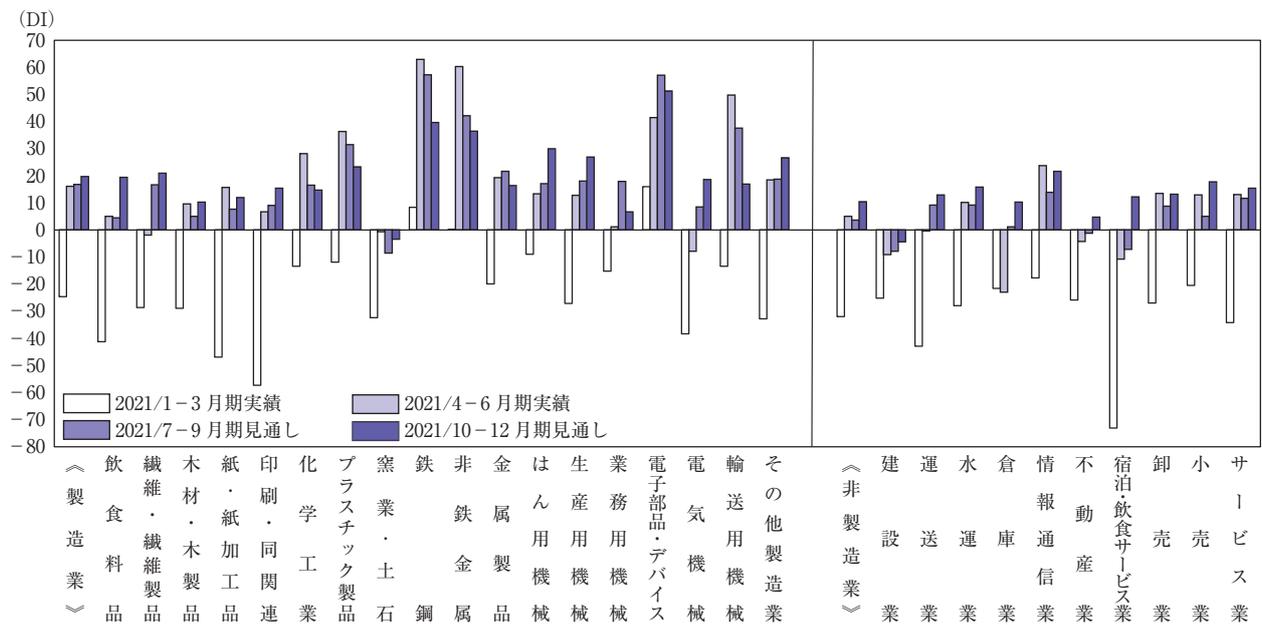
ほぼ全ての業種で業況判断 DI が改善

さらに細かい業種別に業況判断 DI をみていきましょう。今期の DI は、製造業は全ての業種で、非製造業は全 10 業種中 9 業種において、前期と比べて上昇しました（図-2）。

牽引役は、外需関連と素材関係の業種です。前者は輸送用機器や電子部品・デバイスなど、後者は鉄鋼や非鉄金属で DI が高水準となっています。いずれも海外経済活動の再開に伴い、需要が持ち直してきていることが背景にあります。

一方、宿泊・飲食サービス業は、前年同期は過去最低水準でしたが、今年も苦戦が続いています。調査期間中に一部地域で緊急事態宣言が発出されたことなどが影響したと考えられます。来期の見通しもマイナス圏で、回復まで時間がかかる様子です。

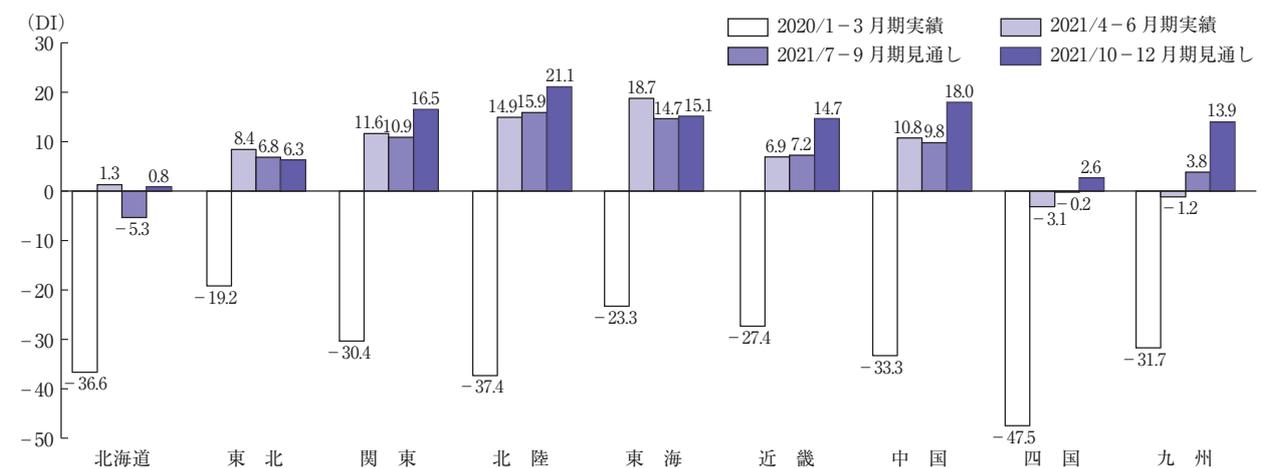
図-2 業種別業況判断 DI の推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）



全ての地域で業況判断 DI は上昇

業況判断 DI を地域別にみると、今期は前期に比べて、全ての地域で上昇しました（図-3）。来期は、北陸や近畿、四国、九州の 4 地域で上昇する見通しです。

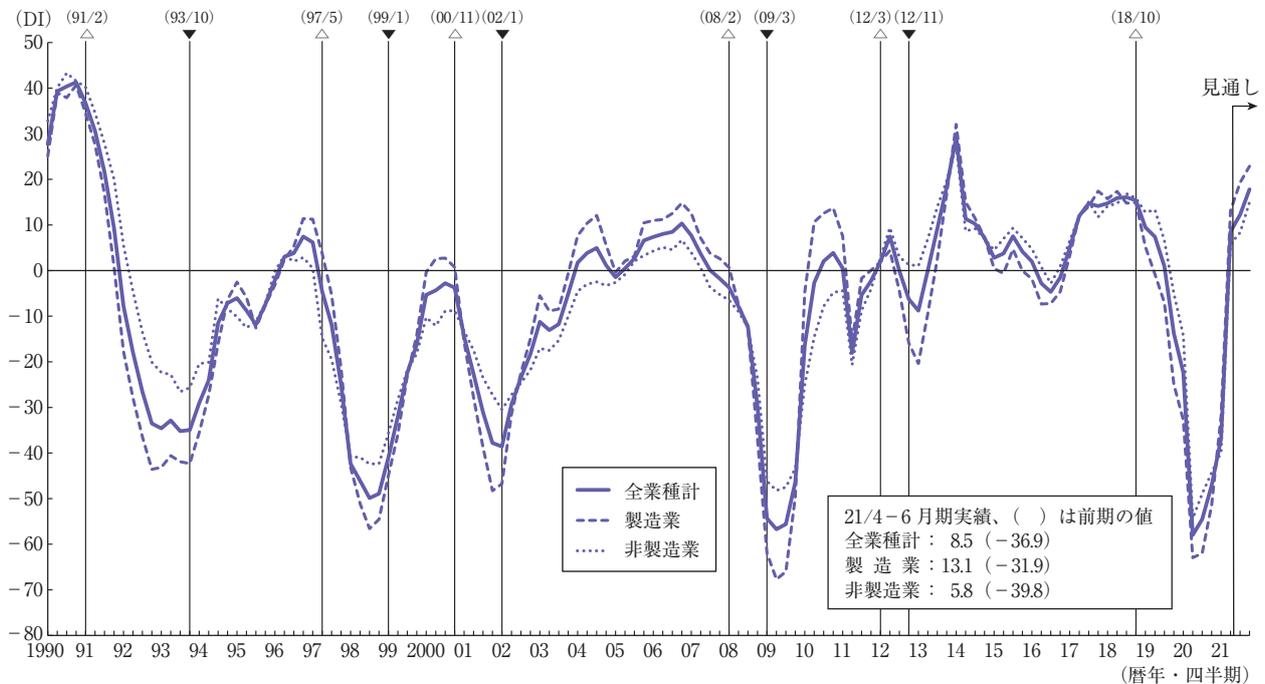
図-3 地域別業況判断 DI の推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）



売上DIは4期連続で上昇

今期の売上DIは、前期から45.4ポイント上昇し、8.5となりました（図-4）。4期連続の上昇です。来期は12.2に上昇し、来々期は17.8とさらに上昇する見通しです。

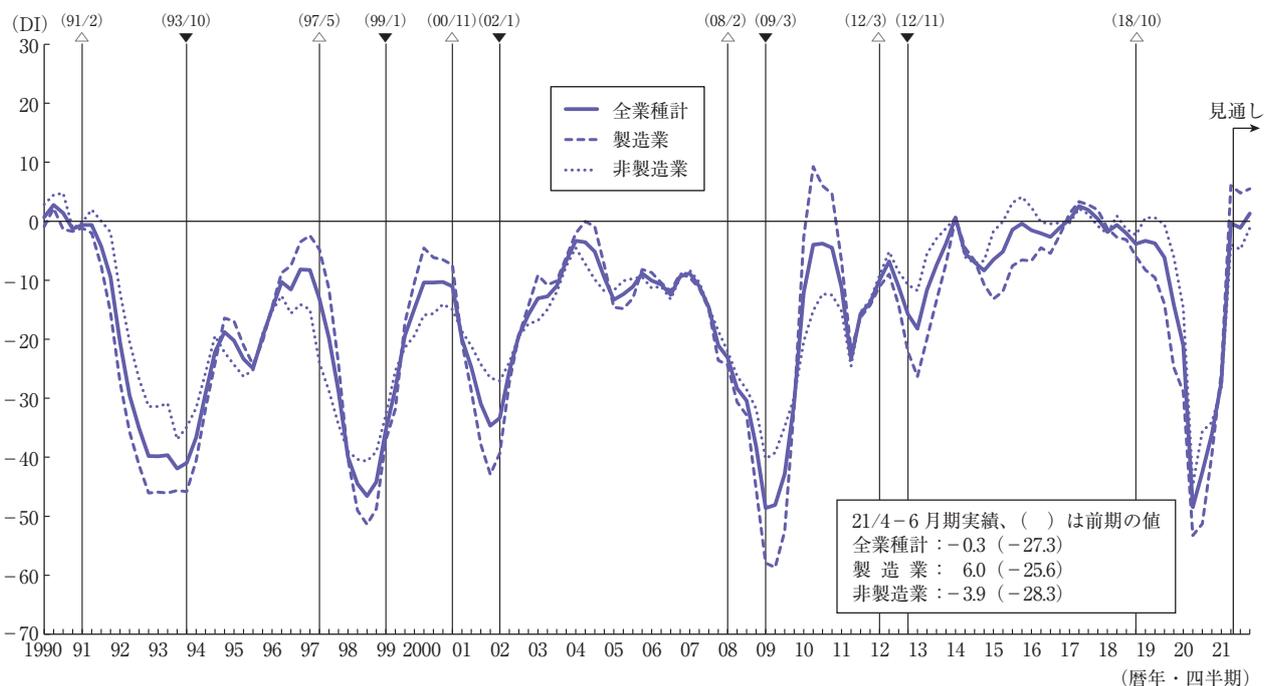
図-4 売上DIの推移（前年同期比で「増加」－「減少」企業割合、季節調整値）



純益率DIは4期連続でマイナス幅が縮小

今期の純益率DIは、前期からマイナス幅が27ポイント縮小し、-0.3となりました（図-5）。4期連続の上昇です。来期は-1.1とマイナス幅が拡大し、来々期は1.3に上昇する見通しです。

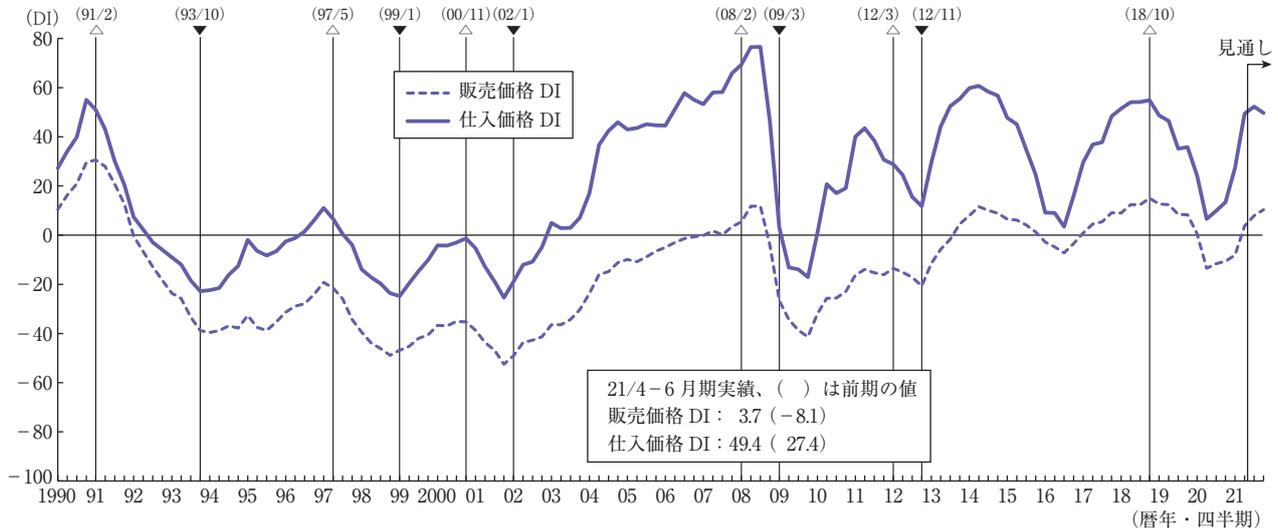
図-5 純益率DIの推移（前年同期比で「増加」－「減少」企業割合、季節調整値）



販売価格 DI、仕入価格 DI がともに上昇

販売価格 DI は前期から 11.8 ポイント上昇し、3.7 となりました（図-6）。仕入価格 DI は前期から 22.0 ポイント上昇し、49.4 となりました。原材料の高騰を受け、仕入価格 DI は上昇しています。

図-6 販売価格 DI と仕入価格 DI の推移（いずれも前年同期比で「上昇」－「低下」企業割合、原数値）

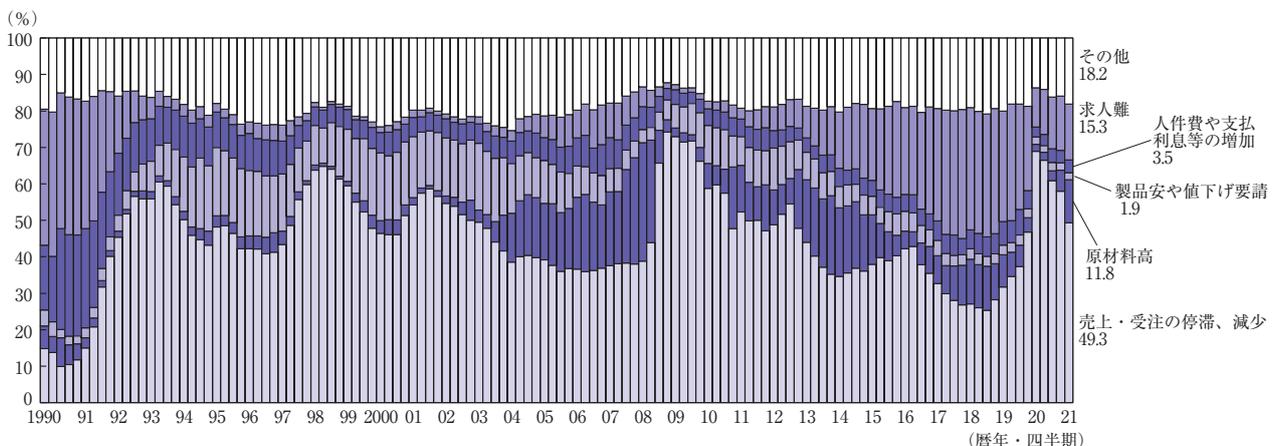


問題点は「原材料高」の割合が上昇

当面の経営上の問題点をみると、「売上・受注の停滞、減少」と回答した割合が 49.3% と最も高く、次いで「求人難」（15.3%）、「原材料高」（11.8%）と続きます（図-7）。「売上・受注の停滞、減少」は前期に比べ 8.7 ポイント低下、「原材料高」は 6.1 ポイント上昇しました。

今回の調査では、外需関連の業種や素材関係の業種が牽引して DI は改善しました。しかし、新型コロナウイルスの感染状況はまだ先が見通せません。原材料価格の高騰や半導体不足など、景気回復の足かせとなる要素も顕在化しています。まだ、先行きを楽観視できる状況とはいえそうにありません。（小針 誠）

図-7 当面の経営上の問題点の推移



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ～ホームページ <https://www.jfc.go.jp/> ～